２０２３・９・２４　　黄金井尚美　主任牧師

＜イエスを認めない人々＞

マルコ３：２０～３０

みな食事する暇もなかった。
　弟子達はいよいよ忙しくイエス様と共に働いた。
　そこに、イエス様を連れ戻しに身内の者がやってきた。何故？

　同じ御業を見ても立ち位置が違うと、見え方は変わり応答も違う。

エルサレムからガリラヤまでやって来た律法学者達。
「彼はベルゼブルにとりつかれている」
「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」
　　ベルゼブル＝蠅の主　　サタンを指す名称として使われている。

サタンは神に敵対する霊的存在。
　　神の愛の対象である人間を、神から引き離し堕落させようとする。
　　それは今も続いている。

＜アダムとエバ＞
　・否定的な見方を刷りこみ、不信感を植え付けた。
神「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。」
サタン「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

　・エバの曖昧な言葉から、心の内を見抜き隙を突く。
神「善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」
エバ「あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ」
サタン「あなたがたは決して死にません。」

◆上手に誘導し疑いの種を蒔き、後は人間が勝手に転げ落ちていくのを高みで見物する。

身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、
食いつくすべきものを求めて歩き回っている。この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、
抵抗しなさい。　Ｉペテロ５：８，９
悪魔にすきを与えてはなりません。　エペソ4:27

目を覚まし祈るなら罠にはかからない！

◆光である神のことばに堅く立つならば、闇は逃げ去っていく。自分が歓迎して扉を開きさえしなければ、サタンは働く事は出来ない。サタンに足場を与えない事。

エルサレムからくだって来た律法学者達
イエス様に御業を見て、「ああ、神の御わざだ！」とは考えない。
「悪霊のかしらなのだから手下の悪霊だって追い出されるだろう」と考えた。

強い人の家に押し入って家財を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。そのあとでその家を略奪できるのです。【２７節】

強い人＝サタン　　家＝サタンに支配されている人間
強い人を縛りあげる人＝御子イエスキリスト

「人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます」　【２８節】

今まで聞いたことのない驚きのことば！

◆神の御子イエスキリストは、サタンと戦ってくださった。サタンの側も全勢力を傾け立ち向かって来た。その激しい戦いの中でイエス様は十字架にかかって死ななければならなかった。

彼は、お前の頭を砕き、おまえは、彼のかかとにかみつく。 創世記３：１５

子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。　ヘブル書２：１４～１５

しかし、聖霊を汚すものは誰でも永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。【２９節】

罪の赦しは、イエスキリストの十字架を通してでなければ受けることが出来ないから。どこを探しても他に罪が赦され方法、救いの道はないから。